The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	吐魯番出土文物研究会会報　第20号 ： 特集・敦煌吐魯番学会成立大会会刊
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 1989, 20, p. 1-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78830
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

吐魯番出土文物研究会会報　第２０号
１９８９年９月１日　特集・敦煌吐魯番
吐魯番出土文物研究会　学会成立大会会刊

中国敦煌吐魯番学会成立大会・一九八三年全国敦煌学術討論会

『会 刊』解 題・目 次

荒川正晴・關尾史郎編

†会　刊　解　題

周知のように、中国敦煌吐魯番学会は一九八三年に甘粛省の蘭州で第一回の大会（成立大会）が開かれ、その後第二回大会（学術討論会）が一九八五年に烏魯木斉で、そして第三回大会（学術討論会）が一九八八年に北京で開かれて現在に至っている。このうち第二回と第三回の大会については、概要が『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』誌上に紹介されているほか（第二回＝総第七期、第三回＝総第一五期。詳細については本誌第一九号、参照）、とくに前者については、その成果が『中国史研究』と『敦煌学輯刊』（いずれも一九八六年第一期）に分載されており、その全容を容易にして知ることができるようになっている。またこの二回の大会には日本をはじめとする諸外国の敦煌・吐魯番学の研究者も招聘されているので、出席した研究者から大会の状況をつぶさに聴くことも十分に可能である（前者については池田温「中国敦煌吐魯番学術討論会（１９８５）」〈『古代文化』第三八巻第一〇号、一九八六年〉が、また後者については、大津透「１９８８年中国敦煌吐魯番学術討論会」〈『唐代史研究會會報』第二号、一九八九年〉がある）。

しかし第一回大会については、開催当時なお『研究通訊』が未刊であり、また香港を例外として国外の研究者は出席していなかったため、情報がきわめて乏しく、その詳細を知ることはなかなか困難である。ここに紹介する『会刊』は、その第一回大会に関するまとまった資料としては唯一のものであろう。

この『会刊』は、Ｂ５の版型で、本文一九四頁のほか、冒頭にグラビア一三頁と目次二頁が付されている。ただ奥付がなく、表紙に「一九八三・八・蘭州」とあるだけだが、大会終了後の遅くない時期に発行されたと考えてよいだろう。

なお表紙にも明記されているように、この会刊は第一回大会だけの会刊ではなく、同時に開催された一九八三年全国敦煌学術討論会の会刊でもある。この学術討論会は、既に敦煌文物研究所編『１９８３年全国敦煌学術討論会文集』石窟・芸術編、文史・遺書編（蘭州　甘粛人民出版社、一九八五・八七年）としてその成果がまとめられているように、研究報告を主体とした文字通りの学会だったわけだが、それと並行して開かれていた第一回大会のほうは、目次からも明らかなように、党・政府代表の報告（領導講話）や、様々な機関・個人による研究状況の報告（大会発言）などを中心に行なわれたのであって、成立大会と呼ばれる理由もここに存する。したがって純粋な研究報告を中心にして大会が運営されるようになるのは第二回大会以後のことといえよう。

『会刊』の記事のうち、若干のものはその後『高教戦線』一九八三年第一〇期をはじめとする雑誌に再録されたもようだが、ほとんどのものはこれによってしか読むことができず、また『蘭州報』など日本では入手が困難な新聞記事が再録されているなど、その価値にはまことに大きなものがあるということができる。残念ながら、私たちが入手できた『会刊』の複写は、その原本が末尾の二〇頁程欠落していたらしく、その全容をうかがいしることはできないが、可能な限り詳細な目次を掲げて紹介にかえたい。

†会　刊　目　次　ここには会刊の目録を参照しながら、検索した結果を示した。ただし先述したように、一部欠損しており、その部分（点線の枠で範囲を示した）については目録の記載をそのまま転載した。また目録には記事が項目ごとに分類されて掲げられているが、ここではその項目を下線を付して示した。冒頭に□を付した項目は目録では番号が付されていないことを示す。なお記載方法の不統一や誤植と思えるものもそのまま掲げた。

☆　☆　☆　☆

□会刊目録　(ｉ－ii頁)

Ⅰ領導講話及賀信

（鄧力群）「鄧力群同志在中国敦煌吐魯番学会成立大会・一九八三年敦煌学術討論会上的講話」　(1－18頁)

（李一氓）「李一氓同志的賀信」　(19頁)

李子奇「在中国敦煌吐魯番学会成立大会・一九八三年全国敦煌学術討論会上的講話（一九八三年八月十五日）」　(20－22頁)

肖　華「在中国敦煌吐魯番学会成立大会・一九八三年全国敦煌学術会討論上的講話（一九八三年八月十五日）」　(23－24頁)

廖井丹「在中国敦煌吐魯番学会成立大会・一九八三年全国敦煌学術討論会上的講話（一九八三年八月十五日）」　(25－27頁)

Ⅱ大会報告

周　林「団結起来、促進我国敦煌吐魯番学的更大発展」　(28－32頁)

季羨林「中国敦煌吐魯番学会成立大会・一九八三年全国敦煌学術討論会籌備工作報告」　(33－36頁)

Ⅲ大会発言

姜亮夫「敦煌学規画私議」　(37－42頁)

姜亮夫「対教育部周林在敦煌学術会上的報告的一些補充意見」　(43－44頁)

姜亮夫「敦煌学規画之一」　(45－46頁)

王永興「我国敦煌文献（漢文）研究概述」　(47－55頁)

段文傑「五十年来我国敦煌石窟芸術研究之概況」　(56－60頁)

周紹良「敦煌遺書（漢文部分）編輯整理情況介紹」　(61－62頁)

陳國燦「吐魯番文書在解放前的出土及其研究概況」　(63－74頁)

張廣達「欧洲学者研究敦煌吐魯番学的概況」　(75－79頁)

斉陳駿「絲路考察紀略」　(80－90頁)

穆舜英・王炳華・李　徴「吐魯番考古研究概述」　(91-106頁)

季羨林「関于開展敦煌吐魯番学研究及人才培養的初歩意見」　(107-112頁)

（饒宗頤）「饒宗頤先生発言摘要」　(113頁)

（谷　苞）「谷苞同志発言摘要－略談西域与西域文明－」　(114-115頁)

（呉　震）「呉震同志発言摘要」　(116頁)

（孫修身）「孫修身同志発言摘要－孫薩河和尚事迹考－」　(117-120頁)

（金維諾）「金維諾同志発言摘要」　(121-122頁)

（姜伯勤）「姜伯勤同志発言摘要－帰義軍与安西回鶻的関係－」　(123-124頁)

（李遇春）「李遇春同志発言摘要」　(125-127頁)

（牛龍菲）「牛龍菲同志発言摘要」　(128-130頁)

（朱維錚）「朱維錚同志発言摘要」　(131-135頁)

（許　琪）「許琪同志発言摘要－試論敦煌壁画舞踏的動律特点－」　(136-138頁)

Ⅳ閉幕式発言

（任継愈）「任継愈同志発言摘要」　(139頁)

（寧　可）「寧可同志発言」　(140-142頁)

（常書鴻）「常書鴻同志発言稿」　(143頁)

唐長孺「閉幕詞」　(144-145頁)

Ⅴ大会主席団名単

「中国敦煌吐魯番学会成立大会・一九八三年全国敦煌学術討論会主席団名単」　(146頁)

Ⅵ学会領導機構名単
「中国敦煌吐魯番学会顧問名単」 (147頁)
「中国敦煌吐魯番学会理事名単」 (148頁)
「中国敦煌吐魯番学会会長、副会長、秘書長、副秘書長和常務理事名単」 (149頁)
Ⅶ中国敦煌吐魯番学会章程（草案）
「中国敦煌吐魯番学会章程」（草案） (150頁)
Ⅷ中国敦煌吐魯番学会学術委員会章程（草案）
「中国敦煌吐魯番学会学術委員会章程」（草案） (151頁)
Ⅸ大会代表名単
「会議代表名単」 (152-155頁)
Ⅹ大会工作人員名単
「大会工作人員名単」 (156-157頁)
Ⅺ提交大会論文目録
「一九八三年全国敦煌学術討論会論文目録」 (158-161頁)
□国内敦煌学研究力量和水平的一次大検閲
敦煌文物研究所編輯室「国内敦煌学研究力量和水平的一次大検閲
－一九八三年全国敦煌学術討論会簡記－」 (162-164頁)
Ⅻ各報報道選載
（余章瑞）「我国学者盼望已久的一件盛事／中国敦煌吐魯番学会在蘭州成立」
（《人民日報》一九八三年八月二十一日） (165頁)
（顧永高）「鄧力群在中国敦煌吐魯番学会成立大会上説／知識分子須認請使命／堅定不移為人民服務」
（《光明日報》１９８３年８月２２日） (166頁)
（閻百琨・顧永高）「我国敦煌吐魯番学研究工作進入新階段」
（《光明日報》一九八三年八月二十三日） (167頁)
（梁勝明）「我国敦煌吐魯番学研究進入新階段的標志／中国敦煌吐魯番学会成立大会・
一九八三年全国敦煌学術討論会／在蘭州隆重開幕／鄧力群等出席肖華、李子奇等分別致詞」
（《甘粛日報》一九八三年八月十六日） (168-169頁)
（梁勝明）「中国敦煌吐魯番学会理事会成立／季羨林為会長、唐長孺、段文傑、
沙比提、黄文煥、寧可為副会長」 （《甘粛日報》一九八三年八月十九日） (169頁)
「飛天起舞迎賓客／記敦煌学家看敦煌舞」 （《甘粛日報》一九八三年八月二十日） (170-171頁)
（梁勝明）「努力開創我国敦煌学吐魯番学研究新局面／中国敦煌吐魯番学会成立大会暨一九八三年
全国敦煌学術討論会／勝利閉幕」 （《甘粛日報》一九八三年八月二十三日） (171頁)
（程兆生）「聚集力量／開展工作／培養人材／加快我国敦煌吐魯番学発展／中国敦煌吐魯番学会成立大会暨
八三年全国敦煌学術討論会在蘭州挙行／鄧力群肖華廖井丹周林李子奇陳光毅楊植霖呉堅等出席
了開幕式」 （《蘭州報》一九八三年八月十六日） (172頁)

□二十二位専家給中央領導的信 (173頁以下)
□教育部関于工作挂靠的請示報告 (177頁以下)
□中宣部文件 (179頁以下)
□中国敦煌吐魯番学会組織経過
中共中央宣伝部的批示 (181頁以下)
教育部向中央宣伝部的請示報告 (182頁以下)
関于発展敦煌学的建議 (184頁以下)
解放後我国学者要求加強敦煌吐魯番研究的建議 (188頁以下)

「中国敦煌吐魯番学会籌備会議紀要」 (191-192頁)
「中国敦煌吐魯番学会第二次籌備会議紀要」 (193-194頁)
（以）

■紹介　西北大学西北歴史研究室編『西北歴史研究』（西安　三秦出版社）

西安にある西北大学の西北歴史研究室は、陝西以西の中国西北地方の歴史研究のメッカであるが、一九八六年からその研究室の編集にかかる『西北歴史研究』が発行されている。最近、幸いにしてその一九八六年号（一九八七年七月、二六〇頁）と一九八七年号（一九八九年一月、三一七頁）に接することができたので、この余白をかりて簡単に紹介しておこう。

研究室の生みの親ともいうべき郭繩武氏（元西北大学副校長、一九八七年四月逝去）の筆になる一九八六年号の前言によれば、本書は一九八〇年から一九八五年まで内部発行されていた『西北歴史資料』の部数を増やして公刊に改めたものであるという（一九八六年号の巻末に附録として『西北歴史資料』の目録が付されている）。

内容を見ると、一九八六年号には論稿九篇、一九八七年号には同じく九篇の論稿と二篇の翻訳が収録されている。一八篇の論稿はいずれも西北地方の歴史に関わる問題を取り上げたものばかりだが、扱われている時代については、古くは王宗維「西戎八国考述」(86)から、新しいところでは趙春晨「左宗棠与“清流”派」(86)まで実に様々である。多くの論稿はなんらかのかたちで少数民族に関連した問題を取り上げており、なかには劉伯鑒「論構成民族特徴的民族語言」(86)のように純粋に理論的な問題を論じているものもある。しかしその一方では、胡戟「関隴集団的形成及其矛盾的性格」(87)のように政治史のテーマに迫ったものや、李健超「陝西城鎮的興起和発展」(86)、李之勤「再論子午道的路線和改線問題」(87)のように歴史地理に関するものも見られる。また李之勤「明末陝西科学家王徴著訳考」(86)は書誌学的な研究だし、李健超「増補唐両京城坊考」(87)は史料集成として貴重な成果といえよう。

一九八七年号に付された後記は郭繩武氏に対する追悼文であり、追悼の言葉とともに、郭氏の研究・教育者としての功績が簡潔に述べられている。

六朝隋唐時代の西北地方史の専家であり、吐魯番出土文書についてもゆたかな成果を公表されている周偉洲氏もここでは「論十六国時期的“胡漢分治”」(86)や「唐代党項的内徙与分布」(87)などの論稿を発表されているので、吐魯番出土の文物を論じたり、活用したりした論稿が一篇もないのをはじめ、西北地方の各地から出土した文物はあまり注目されていないようである。このような点は残念といえなくもないが、新疆も含めた西北地方の歴史を研究する上で本書が果たす役割はけっして小さくはないであろう。　（N）

【お詫びと訂正】

本誌第１９号の「『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次」の５頁、同１９８６年第４期（総第１１期）の目次中、林梅飆「敦煌楽舞著述論文簡目」は、５４頁ではなく、４５頁から５０頁の誤りでした。ここにお詫びして訂正させていただきます。

事務局（連絡先）　〒182 東京都調布市国領町５－19－14
荒　川　正　晴　方　　TEL 0424(81)4633
吐魯番出土文物研究会（The Research Society for Turfan Relics）